

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第6学年

4 本校の参加状況

① 国語A	44人	国語B	44人
② 算数A	44人	算数B	44人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・国語A（知識）では、領域別の「話すこと・聞くこと」の平均正答率が、市平均よりもやや低い。それ以外の3領域の平均正答率は市平均よりも高い。
- ・国語B（活用）では、領域別の「読むこと」の平均正答率が高い。問題形式別に見ると、記述式の正答率が低い。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

●A 領域の平均正答率は40.9%で、市平均より1.3ポイント低い。スピーチにおける列挙法や倒置法、比喩法などの表現方法の理解が不足している。

【書くこと】

●B 領域の平均正答率は46.0%で、市平均よりも2ポイント高い。しかし、複数の内容を関連付けながら、自分の考えを書くことができなかった児童の割合が高かった。

【読むこと】

○B 領域の平均正答率は58.5%で、市平均よりも9ポイント高い。2つの文を比較し、推薦の対象や理由の違いを読み取ることができている。

国語に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

○国語の授業の中で身に付いた力が将来役立つという、肯定的なとらえ方をしている児童が多い。今後も学校生活の様々な場面で、話す・聞く・書くなどの力を活用する場面を設定し、その有用性を実感させる指導を行っていく必要がある。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・話す・聞く能力を育むために、日常的なスピーチや討論する場면을意識的に設定したい。その中で話し手、聞き手それぞれの立場から、意見や思いを積極的に理解し合う経験を積ませる。また、目的や意図に応じて、伝えたい事柄が明確に伝わるように話の構成や表現技法を工夫することを指導する。

【読むこと】

- ・日々の読書活動の継続を図り、充実した読書体験をもたせる。表現や叙述に着目しながら、心情や主題を読み取る指導を行う。また、新聞や雑誌、広告などの様々なメディアの情報を読む機会を増やすことにより、各メディアの特徴的な形式に着目させ、その効果について考えさせる。

2 算数

全体的な傾向

- ・算数A（知識）では、領域別「図形」「数と計算」の平均正答率が、市平均よりも高い。「数量関係」の平均正答率が市平均よりも低い。
- ・算数B（活用）では、領域別の「数と計算」を除く3領域で平均正答率が低い。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【図形】

- A 領域別の平均正答率は85.6%で、市平均より9.9ポイント高い。合同な図形を書くことができる条件や見取り図と展開図を対応させて図形の特徴をつかむことがよく定着している。
- B 領域の平均正答率は78.0%で、市平均より2.3ポイント低い。図形を観察し、示された長方形の面積を4等分する方法を理解した上で、それを基に台形に 응용させて考察することができなかった。

【数量関係】

- B 領域の平均正答率は54.5%で、市平均より1.7ポイント低い。表から数値を適切に取り出して2つの数量が比例の関係でないことを数や言葉を用いて記述することができなかった。

算数に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 算数の授業の内容が理解ができていると肯定的に回答している児童が多い。少人数指導による成果が表れていると考える。今後も児童の習熟に細かに対応した指導を行っていく必要がある。

指導改善のポイント

【図形】

- ・図形の特徴や性質を理解し、それを活用して問題を解決する場面を設定し、統合的・発展的な考え方を育てる指導を行う。

【数量関係】

- ・比例などの伴って変わる二つの数量の関係に着目させ、表の中から根拠となる数値を用いて関係を説明させる言語活動を展開することにより、表現力を育てる。

【その他】

- ・自分の考えを図・式・言葉などを用いて表現する活動を行うことにより、自分の考えを整理、深化させながら筋道を立てて考える習慣を身に付けさせる。また、友だちとの考えの交流を図り自分の考えと比較しながら、互いのよさに気付かせる指導を行っていく。

3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

○友だちと話し合う活動についての肯定的な回答の割合が90.0%と高い。本校では一昨年まで「学び合い」を学校課題として授業研究を行ってきた。その中で、友だちと教え合ったり、意見を交換し合ったりする場面を設定した授業構成が定着してきたと考えられる。児童は、友だちとの学び合いのよさや楽しさを感じながら学習している。

●携帯電話やスマートフォンの所有率が高いが、使い方のマナーや約束について意識して守っている児童の割合が低い。SNS等の使用方法について陥りやすいトラブルや危険性について家庭に対し知らせることにより、親子での話し合いの機会を持たせるようにする。